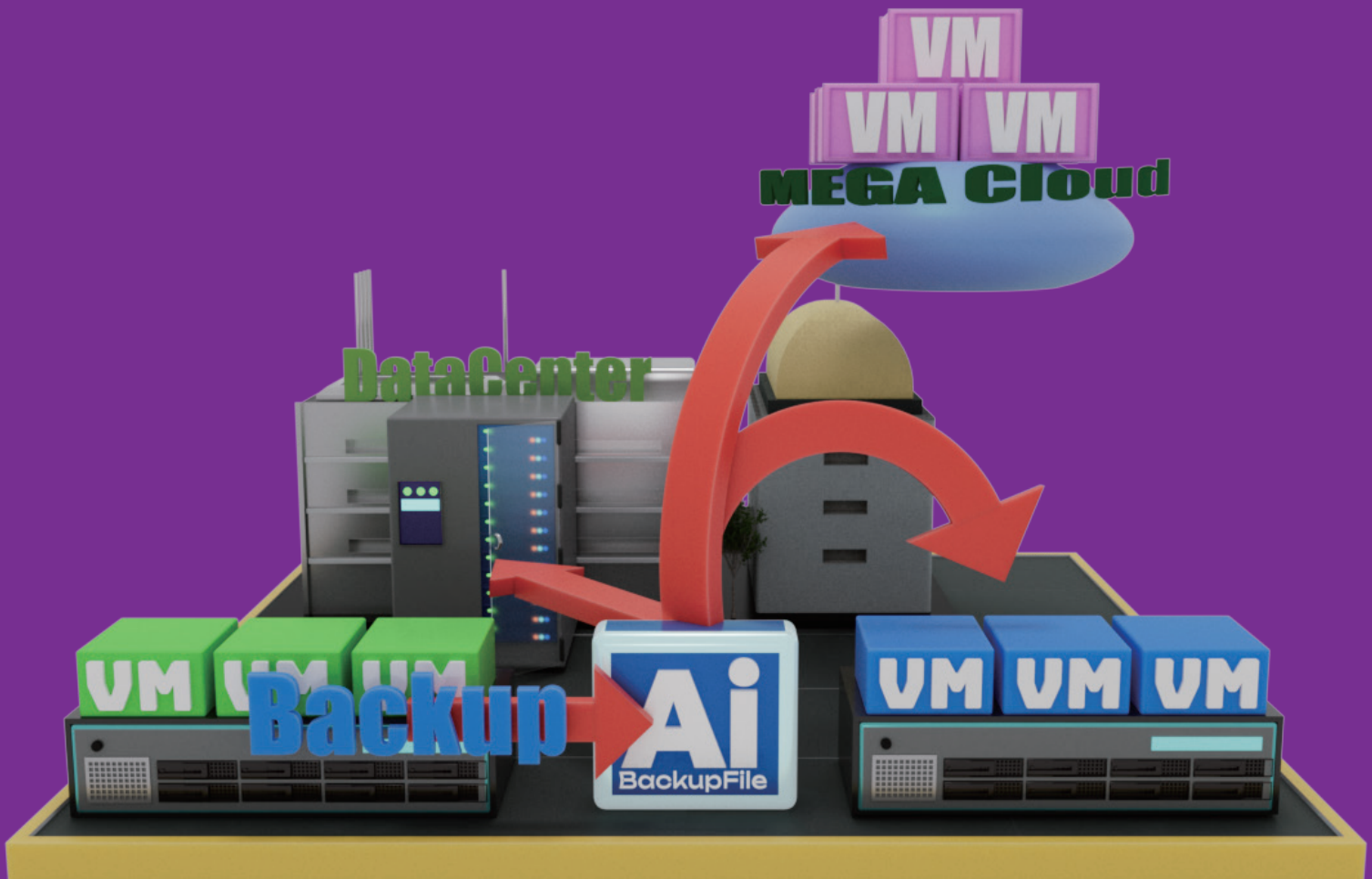


ドコデモ モドセル

DOKODEMO MODOSERU SOLUTION

ActiveImageTM
PROTECTOR

ActiveImage Protectorのリカバリーでは、異なる仮想環境/インフラにどこでも復旧可能なため、あらゆる障害のBCPを実現します。

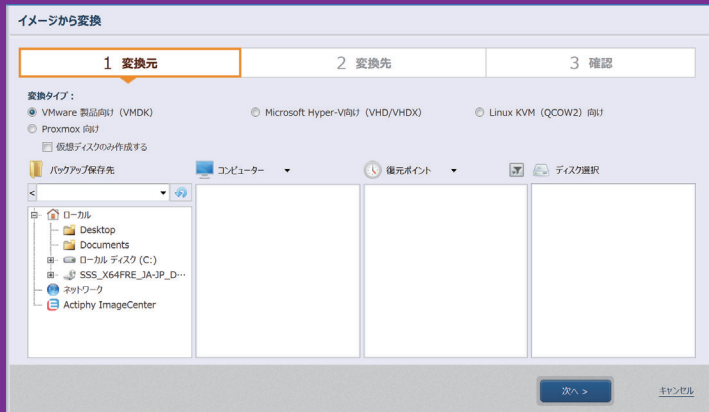


—概要—

ハードウェア障害、ランサムウェア感染などによるシステム障害において、元のハードウェアに復旧ができない場合に、ビジネスの継続(BCP)に不可欠なシステムの復旧をおこなうためには、異なるインフラに復旧する必要があります。ActiveImage Protectorシリーズでは、一般的にユーザー自己責任となるコンバート機能について、ユーザビリティの良い機能実装と、アクティブアイのサポートチームによるサポートを含めた形で提案しています。このようなコンバートを伴うシステム復旧を身近に実現可能とすることが、ActiveImage Protectorで提唱するドコデモ モデル ソリューションです。

—バックアップファイルから仮想ホストに復元—

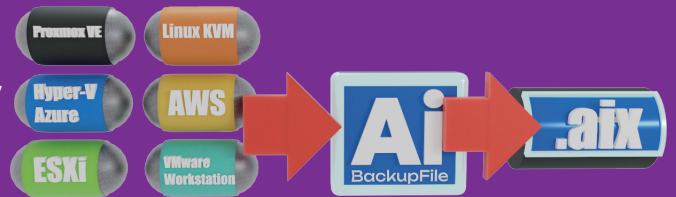
ActiveImage Protectorで作成されたバックアップファイルを使用して仮想環境に移行をおこなうことができます。これは同一の仮想ホストだけでなく、異なる仮想ホストへの移行も含まれます。また元の環境が物理サーバーであっても同様に復元することが可能です。



ActiveImage Protectorのコンソールからバックアップファイルを指定し、移行先の仮想ホストを選択するだけの、ユーザビリティに優れた操作性で実行することができます。元の環境問わずにESXi, Hyper-V, Linux KVM, Proxmox VEに移行することができます。移行対象のバックアップファイルは、ベースファイルでも増分ファイルでも移行したいタイミングのリカバリーポイントを選択し、移行先の仮想マシン名などを設定するだけで、移行することができます。また移行の速度は通常のバックアップ取得同様に高速です。移行に必要なモジュールなどについては、選択した仮想ホスト別に必要なパッケージとして自動で割当をおこないます。

—復元処理による移行—

ActiveImage Protectorで作成されたバックアップファイルを使用して、更に様々な環境に復元(移行)することができます。まず、バックアップファイルへ復元(移行)したい環境に必要なモジュールのパッケージを追加し、.aixファイルを作成します。(VMware以外)



元のバックアップファイルと、作成した.aixファイルを移行先のインフラからアクセス可能な共有フォルダ等へコピーまたはアップロードすることで、復元(移行)をおこなうことができます。オンプレミスのESXi, Hyper-V, Linux KVM, Proxmox VEの他にメガクラウドのAWS, OCI, GCP, Azure(Azure Boost除く)、その他国内のデータセンターなどに復元(移行)することが可能です。

—ActiveImage Protectorの処理以外に必要となること—

様々なインフラ環境への移行作業などでは、ActiveImage Protector以外で必要となる作業などもあります。アクティブアイではそれらについても全て網羅したサポートを実施しています。また弊社のサポートは電話(ガイダンス無しで繋がる)、メール、チャットの全てでアクティブアイのエンジニアが直接対応しています。

Actiphy Support

